

令和3年度第1回調整会議 議論まとめ(島しょ) R3.9.3 開催 1/4

(意見交換1) 地域医療支援病院の要件の追加について

- この要件の追加は、今後どのような流れ、スケジュールで行われるのか。(座長)
→スケジュールはまだ検討中だが、こうした事項を定めることについては、今まさに、地域医療構想調整会議で意見聴取しているところ。頂いたご意見を踏まえて、医療審議会に諮り、御承認いただく流れとなる。(医療政策部医療安全課)

(意見交換2) 新型コロナウイルス感染症に関する各島での対応状況について

<テーマ> ワクチン接種や自宅療養者の状況・課題について

<意見交換>

- 2回目のワクチン接種が、8月27日現在で高齢者は92%、12歳以上は84%。9月16日で集団接種を終了し、その後は大島医療センターで個別対応。(大島町)
- 6月に集団接種2回目終了し、人口の93%が接種済み。自治医大出身のクリニックの先生に来ていただき、集団接種を1回目、2回目を2日ずつ土日に実施した。先生と看護師が移動して実施したため住民からも好評だった。(利島村)
- 12歳以上の81.8%が2回目終了。9月24日までの接種期間に予約済みの方が全て接種したとすると、87.3%の方が2回目終了予定。漏れている方は今後は診療所で個別接種。(新島村)
- 全体で77.5%の方が終了。残り1日接種日があるが、40歳代以下が68%とか58%という低い接種率なので全体の接種率を下げている。集団接種後に接種希望の方が出てきたときの対応を町村会や東京都に配分等お願いしている。(神津島村)
- 65歳以上の高齢者は、1回目が90.9%、2回目が89.3%。12~64歳の方は1回目が87.3%、2回目が84.0%。対象者全体では2179名おり、1回目終了が88.9%、2回目終了が86.4%となる。集団接種は終わり、個別接種の残り62名が終わればワクチン接種は完了する。(三宅村)
- 希望者全員の242名の接種が終了。対象者のうち概ね90%。今後は12歳到達時の方が3月末までに3名ほど出てくる見込み。(御蔵島村)
- 65歳以上は8月28日現在、1回目が88%、2回目が85%終了。全体では、1回目が75%、2回目が53%となっている。9月18日で集団接種は終了し、個別接種はクリニックで16歳以上の一般の方を対象に行う。また、八丈病院で、12~18歳の方に小児科で実施。3月まで、今後12歳に到達した人に対しても小児科で実施する。(八丈町)

- 8月6日で一通り接種終了。12歳以上の155名のうち、140名、約9割が実施済み。島外で受けたという話は聞かぬが、確認できていない方もいるので接種率はもう少し高くなるかと思う。駒込病院と広尾病院からご協力をいただき、集団接種を無事終了することができた。(青ヶ島村)

- 高齢者の集団接種と村内での小規模な集団接種、島外のスタッフを招聘しての大規模な集団接種を2回企画した。9月に2回目接種の方が一部残っているが、全て終わると父島で約86%、母島で約93%、合計で約85%の接種率。今予定しているワクチンの有効期限が切れる形になったものは他の地域へ移動していただき、今後定期的に接種が必要になっても対応にはあまり問題はないかと思う。へき地の事情をくんでワクチンを融通していただき、非常に助かった。(小笠原村)

- 非常に高い接種率だが、未接種の理由について教えていただきたい。(東京都医師会)
 - 集団接種は終了するが、個別接種の予約の受付を開始したところ、いきなり20名近く申し込みがあった。個別接種を希望している人が未接種だったのではないか。(大島町)
 - 若者の接種率が低い。1回目の副反応を経験したり、知ったりしたために2回目をやめた方が何人かいる。また、若い人の中には住所を残したまま島にいない方も結構いるため、島外で打っている可能性もある。一方、50代以上は80%以上なのでほとんどの方は打っている。また、打たないつもりだったが人が打っているのを見て、ということで後から申し込む方もいる。(神津島村)
 - 2回打つか1回しか打たないかで効果はかなり違うので、「1回打ったからいいだろう」ということではないということ、保健所として周知しないといけない。(座長)

- 前回のこの会議は陽性者が非常に増えていた時期で、「島で感染者が出た際に本当に広尾病院に入院できるか」という質問に対し、状況次第ですね、という話をしていたかと思う。島から入院するのが困難だった事例などはあるか。(東京都医師会)
 - 4月から7月までに、島しょ全体から86人受け入れ、うちコロナ患者が23人。現状、島の患者はすぐに受け入れている。ただ、産科はまだ受入ができないため、ご了承いただきたい。(広尾病院)

- 保健所の出張所が中心となって自宅療養の健康観察をすると思うが、自宅療養の課題や、苦労したことなどはあるか。(座長)
 - 8月下旬から自宅療養の方が数名いる。保健所が1日に1~2回、電話で健康観察を行っている。パルスオキシメーターの貸出もしているが、濃厚接触者の方にも体温計を持っていない方が案外いるため、体温計の貸出もしている。自宅療養者に対しては、希望者には食料も届けている。濃厚接触者について付け加えると、アプリ等を使い慣れていると思われる方には、MYHER-SYSを通じた健康観察も行った。八丈病院の木村院長とはマメに情報交換をさせていただき、何かあればすぐ相談できる体制になっているので特に大きな課題はない。(八丈出張所)

- 1月の調整会議で、搬送スキームの見直しや、地域に必要なリソースやマンパワーへの支援等について発言し、「検討させていただく」とのコメントがあったが、回答はいただけるか。(小笠原村)
- 「従来は、島で陽性になったら全員搬送ではなかったか」というご質問、御意見をいただいている。当時は陽性者は基本全員入院だったが、その後の状況で、医療が逼迫し軽症者が入るベッドがないということもあり、無症状者及び軽症者は、入院が第一ではないというふうに変化している。1月の会議後更に逼迫の度合いが進んでいるという中で、スキームについては町村さんへの回答を都の方で用意をしているところ。即答できておらず申し訳ないが、各関係部署でこの次の状況について回答を検討させていただいている。(座長)
- 広尾病院には、いつも島の医療を支えていただき、急患やコロナについても、内地の医療が逼迫している中でも受入に尽力していただき、大変感謝している。1月の会議の際、広尾病院から、「重症度の危険性を考えると、軽症であっても、島しょ地域の患者さんは搬送でいいんじゃないか」というコメントをいただいている。その後、国内、都内の状況が変わり、そういう流れのままというわけでもないのではないかと考えたりしている。先ほど広尾病院から「可能な限り受け入れる」とのコメントをいただいたが、島しょ地域の軽症の患者を搬送することについて、現場の先生方のご意見を伺いたい。(小笠原村)
- 病院全体としてというより、個人の意見になってしまうが、可能な限り島しょの患者さんは重症度に関わらず受けていきたい。伊豆諸島の行政搬送件数もかなり増えてきて、受け入れること自体は搬送経路での感染対策も含め、大分経験が積まれてきた。ただ、ベッドの状況が日々変わっており、特に重症ベッドが埋まってきて安易に受けづらい状況が発生することもあるという点で、流動的な部分はあるかと思う。(広尾病院)
- 議論しにくい話だと思うが、前提としては、軽症者でも重症化リスクの高い方はもちろん除いて考えた方がよい。ただ、実際、最近は軽症者は搬送されずに地域内で療養するケースが多数発生している。この辺はどことが判断基準になっているのか、なかなか整理できていないところがある。地域内で療養できる、元気な軽症者は地域内で診ていこうというのがコンセンサスなのか、出来るだけ搬送するが、広尾病院や保健所等のご意見を聞いて、その上で判断しなければならず、その時、最終的にどことが判断するのか、ということもいつも悩みながらやっている。(小笠原村)
- 島内での自宅療養に至った患者の経緯は、まず当院に相談がなかった例というものもあると聞いている。行政搬送の相談があり、診療所、保健所、当院との話し合いで搬送に至らなかった例もある。保健所、診療所で最終判断に至れば、受け入れるという返答を基本的にはしている。(広尾病院)
- 本土では、入院か自宅療養かは保健所が決めている。今はベッドが一杯なので軽症はできるだけ自宅療養というのが本土の現状だが、軽症者でも重症化する人がいて、場合によっては亡くなることもあり社会的な問題になっている。島しょは自宅療養者の具合が悪くなった時、医療機関にすぐアクセスできるかという非常に不安だと思うので、個人的には、島しょにおいては、重症化リスクが高い人は軽症であっても事情が許せば広尾病院で診てもらえたらと思う。(東京都医師会)
- 入院調整本部が一元的に調整していると思うが、島しょの場合はそれとは別ということでしょうか。(座長)
- 感染症対策部の方で決めることになっている。(医療政策部)

- 「できる限り島しょの患者を受け入れる」の前提には、「入院が必要な方」があるのか。(座長)
→実際はそうした基準は設けておらず、ベッド状況が許せば軽症者を受けた例はある。(広尾病院)
→そうすると、搬送機関の問題がある。受入先が合っても搬送手段が難しいのが島しょだが、「入院が必要な方」を搬送するとの話になっているので、その捉え方と調整の問題かと思う。(座長)
→若くて軽症の人の搬送依頼がすごくつらいという現状もあるので、いろいろなことに悩みながら島では診療しているということをご理解いただければ。(小笠原村)
- 本土の宿泊療養に行くことを考えてもいいのではないかと思うが、島民の宿泊療養はどのくらいあったか。(東京都医師会)
→聞く限りでは、島から直接ホテルにという例はなかったように思う。フェリーに乗れず、搬送手段の問題が出てくる。(医療政策部)
→宿泊療養を検討した例は記憶しているが、数日入院されて、退院後宿泊療養となったか自宅だったかは分からない。(広尾病院)
- 軽症者の搬送が大変なら、軽症のうちに島で抗体カクテルを積極的にやっていくという話はあるか。(東京都医師会)
→感染症対策部と救急災害医療課の尽力により、希望する診療所にはおいてもらえることになり、近いうちに置く予定。(小笠原村)
→配布先の調整を今しているところ。広尾病院の入院後、本土の宿泊療養に切り替えた例は承知している。また、島しょから東京に出てきていた際に発症し、宿泊療養となった例も数例承知している。(座長)
- 広尾病院が「軽症も受け入れる」とのことだったが、確実に受けていただけるのか。(八丈町)
→「確実に」と言われるとなかなか難しいが、「可能な限りは受け入れていく」という方針でいる。(広尾病院)
→八丈病院で中等症は入院できるのか。(座長)
→中等症の患者を入院させている。(八丈町)
- 今年の3月頃、広尾病院がコロナの拠点病院なので、一般のヘリ要請の場合受け入れを他の病院に振り分けるとなったと思うが、今後そういうことは起こり得るか。(神津島村)
→今は基本的には広尾病院で受けていただいている。(医療政策部)
→ヘリの搬送順位も広尾病院が一番に戻っているので、救急は可能な限りやっていく。(広尾病院)